

平成 20 年 7 月 9 日
日本銀行盛岡事務所

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、弱めの動きとなっている。

最終需要の動向をみると、設備投資が底堅い動きを示しているが、公共投資と住宅投資が前年を下回って推移しており、個人消費も弱めの動きとなっている。こうした中、生産は低下傾向にあり、雇用情勢も弱めの動きとなっている。

なお、6 月 14 日に発生した「平成 20 年岩手・宮城内陸地震」の影響をうかがうと、生産面には限定的ながら、観光面においては入込み客数がかなり減少している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、総じてみれば弱めの動きとなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、衣料品が低調に推移しているほか、身の回り品、雑貨などの売れ行きも鈍く、前年を下回って推移している。スーパーでは、ガソリンや食料品等の値上げが続く中で、割安商品のまとめ買いや割安感のあるプライベートブランド商品へのシフトなどが続いており、ほぼ前年並みの動きとなっている。

(家電量販店売上高)

家電販売では、冷蔵庫、洗濯機などの白物家電は伸び悩んでいるが、ブルーレイを中心に DVD が好調なほか、薄型テレビやデジカメも順調に推移しており、全体でも前年を上回って推移している。

(乗用車新車登録台数)

5 月の乗用車新車登録台数（軽自動車を含む）は、新車投入効果もあって普通車が前年を上回って推移しているものの、小型車等が伸び悩んでいるため、

全体では3ヶ月ぶりに前年を下回った。

(2) 公共投資

6月の公共工事請負金額は、3ヶ月連続して前年を下回った。

(3) 住宅投資

5月の新設住宅着工戸数は、全体に盛り上がり欠け、4ヶ月連続して前年を下回った。

(4) 設備投資

2008年度上期の設備投資計画(6月短観調査結果)をみると、非製造業は前年度を下回る計画となっているが、製造業は品質向上などの戦略投資を企図する先が散見され、前年度を上回る計画となっている。

(2008年度上期前年度比：製造業+49.3%、非製造業 39.7%、全産業+39.9%)

3. 生産動向

生産は、低下している。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、米国のパソコン、携帯電話需要の減少などを背景に、操業度が低下している。

(輸送機械)

完成車は、米国の低所得者層の需要落ち込みなどから、操業度が下がっているが、自動車部品は、新興国向けの需要好調を背景に高操業が続いている。

(一般機械)

建設機械部品は、新興国向けを中心に堅調に推移しているが、半導体価格の下落などから半導体製造装置が生産水準を引き下げているほか、自動車関連向け工作機械も欧米向けの受注鈍化などから生産を抑制している。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車向け需要に支えられ、高操業を続けている。一方、窯業・土石、木材・木製品は、減産体制を続けている。食料品は、清涼飲料が堅調に推移しているが、水産缶詰が原材料コストの上昇などから減少傾向にあり、全体では横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、5月の有効求人倍率（季節調整値）は0.64倍（前月：0.65倍）、新規求人倍率（同上）は0.89倍（前月：1.02倍）と、いずれも前月比低下した。

この間、雇用者所得は、常用雇用者数が前年を下回って推移していることから、前年割れの状態が続いている。

5. 企業倒産

6月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数7件（前年同月6件）、負債総額108億78百万円（同13億56百万円）。大型倒産が発生したため、負債総額は、過去5年間では本年4月に次いで2番目となった。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、法人預金や公金預金が前年を下回っているものの、個人預金が増加していることから、全体では前年を上回って推移している。

一方、貸出動向は、法人向けが低調なうえ、住宅ローンも頭打ちになっているものの、地公体向けが増加していることから、全体では前年を上回って推移している。この間、貸出金利は、ほぼ横這いの動きとなっている。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/
